
スクイズマン!

りす君

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スクイズマン！

【Nコード】

N2375B

【作者名】

りす君

【あらすじ】

これは、一人の野球少年が、絶対に成功する“秘伝の技”を極めて、チームに貢献している話である。

（前書き）

何故少年は、監督やチームメイトから“スクイズマン”という異様なあだ名をつけられたのか…

これは1人の野球少年の不思議なあだ名についての話。

・スクイズ・・・簡単に言えば、野球での点の取り方の一つである。3塁の走者が予め、本塁に向けてリードしといて、打者がバットに軽く当て（これをバントという）、それがフェアライン内に転がったと解る前に素早く本塁に向けてダッシュし本塁を踏み点を取る。非常にリスクが高い行為だが、点を取るには手っ取り早い。

僕は、このシニアリーグの1チームに入ったキツカケは超人並の足の速さとグダグダなバント能力を買われたからだ。

僕は監督やチームメイトから“指名打者スクイズマン！（名付けられた時は、何て幼稚なあだ名なんだろうと最初は不満だったけど、今は誇らしいあだ名だと思っている）”として、チームの中では扱われている。僕にとってバントとスクイズは、かつて一度も失敗した事の無い、成功確実の秘伝の技なのだ。

昔、僕はチームに入った頃から、俊足バッターで1番セカンド（2塁）の正選手の座を手にしたんだけど、肩や足の怪我などが続いてしまい店頭、監督にスターティングメンバーから僕が外されてしまったんだ。

僕はその時挫折感を味わい、もう野球を辞めようか迷ったが唯一、僕に野球を続けていく道がまだ残っていた・・・それが指名打者のポジションだった・・・。

僕は、試合中に監督から指名打者として出させてもらえるように、持ち前の俊足を更に強化し、苦手だったバントの練習を一生懸命してセーフティバント成功率をアップさせた。そして、やっと監督に認められたのか試合中、チームの勝ちを決定付ける点を取る大事な場面で、僕は使われるようになった。

スクイズは大抵、チームの勝ちを決定づける点を取りたい時、多く重宝ちゆうほうされる。だから、多く成功すると試合終了後、“今日のチームヒーロー”に指名される事があるのだ。僕は、チームヒーローになるために今まで何度もスクイズを成功させてんだ。だから、今日こそは…

（ウグイス嬢）“ここで攻撃チーム、選手交代します。7番…君に変わり、指名打者…”

9回裏、2アウト、走者2、3塁の大事な場面に僕が呼ばれている。さて、僕の“スクイズマンとしての仕事”をしなくては…。

僕は、ベンチからバットを持ち出し、観客からの興奮した声が場内に響き渡る中を意気揚々とバッターボックスに向かっていった。

（後書き）

この小説をお読み下さりありがとうございました。是非、この小説の評価の程を宜しくお願い致します。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2375b/>

スクイズマン!

2010年10月9日21時35分発行